

## OUR TEAMのために

児玉 直樹

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

ジョン・フィッツジェラルド・ケネディ (JFK) は、アメリカの第35代大統領に43歳の若さで就任しました。大統領在任中にアメリカ航空宇宙局 (NASA) による人類初の月への有人宇宙飛行計画、いわゆるアポロ計画を推進し、キューバ危機においては米ソ全面核戦争の危機を回避し、アメリカのその後の発展に大きく貢献しました。しかし、大統領在任中の1963年11月22日にテキサス州ダラスにおいて暗殺されてしまいます。大統領在任期間は3年弱しかありませんでしたが、多くの歴史的課題に取り組み、今でも語り継がれる存在となっています。大統領就任演説でもっとも有名な言葉は、アメリカ国民に対して自己利益を超えて、自分の国のために働くように促した、“Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country.” (あなたの国があなたのために何ができるかを問うのではなく、あなたがあなたの国のために何ができるのかを問うてほしい) です。これを組織に適用すると、組織があなたのために何ができるかを問うのではなく、あなたが組織のために何ができるのかを問うてほしい、となります。コスパやタイパを重視する世代にとって、JARTからの利益を求めるのではなく、あなたがJARTのために何ができるのか?を問うと、どのような回答になるのか非常に気になるところです。



組織やチームに所属していると、意見の衝突や運営方針に納得がいかない人も出てきます。怒りのコントロールができるアンガーマネジメントができていれば問題はありますが、できない場合には不満のはげ口や嫌がらせを外に求めることが多くなります。このようなカスタマーハラスメントは日本社会において大きな問題になりつつあり、若い世代ではなく中高年に多い傾向があります。スポーツの世界でもアンガーマネジメントは必要不可欠なスキルの一つです。特に指導者においては、その感情をコントロールできずに不適切な指導をしてしまうと、選手との信頼関係を壊し、指導者が願う選手の成長や活躍・勝利から遠ざけてしまう恐れがあります。また指導者による暴言や暴力は、若い選手のその後の人生に大きな影響を与え、未来まで奪うことになりかねません。スポーツのみならず大学教員や医療機関において指導的立場にいる技師長や科長は、自分自身の言動や行動をいま一度振り返り、若い診療放射線技師や学生への影響をよくよく考える機会をつくってほしいです。組織の指導的立場にある人の発言は非常に重いのです。

少し前の話ですが、ラグビーW杯で日本代表がスローガンにしていたONE TEAMが新語・流行語大賞に選ばれましたよね。異なる文化や考え方を互いが尊重し、心を一つにするという意味では素晴らしいです。しかし、自信を持ってチームに貢献できているとメンバーが思えること、そしてどのような結果を出したいのかを常に考えてチームに貢献することがなにより重要です。現状維持ではなく、新しいものを常に取り入れ、スタンダードを上げていく、ステップアップすることが大切で、そうなるとうるTEAMになるのです。われわれのチームとなることをJARTは目指していく必要があると考えています。変化を恐れて現状維持を目指すとうるTEAMは停滞します。うるTEAMは常に新しい考え方を取り入れ、スタンダードを上げていくことを目指します。特に、組織の指導的立場にある人こそうるTEAMに貢献していただきたいです。

最後にJFKの言葉です。“Change is the law of life. And those who look only to the past or present are certain to miss the future.” (変化は人生の法則である、過去や現在だけを見ている人は、確実に未来を逃すことになる)。大学教員や医療機関において指導的立場にいる技師長・科長は、診療放射線技師の未来のため、若い世代の診療放射線技師や学生たちに否定的な言葉ではなく前向きな言葉を掛け、スタンダードを上げていく努力を一緒にしていきませんか。うるTEAMのために。